

会 議 結 果

会 議 名 (審議会等)	令和6年度 第4回高砂市子ども・子育て・若者会議
開催日時	令和7年2月7日(金) 18:30~20:00
場 所	高砂市役所 南庁舎5階 大会議室
会議公表	☒ 公 開 (傍聴者定員数: 3 人) (傍聴者数: 0 人) ☐ 非公開 (非公開理由:(例) 情報公開条例第7条の規程に該当するため。等)
事務局 (担当課)	健康こども部子育て支援課 (TEL079-443-9024)
議 題	(1) 令和6年度開催のこどもワークショップ報告書について (2) 第2期高砂市子ども・子育て・若者支援プラン(素案)のパブリックコメント結果について (3) 第2期高砂市子ども・子育て・若者支援プラン(案)について
出席者	委員16名(欠席4名)
結 果 (議事録又は議事概要)	
発言者	内 容
事 務 局	皆さんこんばんは。本日はお忙しい中、特に今日は寒い中お集まりいただきましてありがとうございます。 会議の開会の前に、本日の会議資料の確認をお願いいたします。当日配布しております資料の一覧表に、1から9の資料をご用意させていただいておりますので、ご確認をお願いいたします。お手元にない資料がございましたら、事務局までお知らせいただきますよう、よろしくお願いいたします。
事 務 局	1 開 会 それでは定刻となりましたので、令和6年度第4回高砂市子ども・子育て・若者会議を開会いたします。 開会に先立ちまして当会議の公開について、高砂市審議会等の会議の公開に関する指針に基づきまして、公開とさせていただきます。 また、本日の傍聴者はなしとなっております。 議題に入る前に、本日委員20名のうち、今現在15名の委員に出席いただいております。出席者数が過半数となりましたので、高砂市子ども・子育て・若者会議条例第6条第2項により、会議は成立しておりますことをご報告申し上げます。

市 長	それでは開会にあたりまして都倉市長よりご挨拶を申し上げます。 2 市長あいさつ 皆さんこんばんは。 本日は公私とも大変お忙しい中、また夕方、大変大荒れの天気の中、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。 皆様方におかれましては第2期の高砂市子ども・子育て・若者支援プランの策定に当たりまして、昨年度から2か年にかけて、いろいろ貴重なご意見をいただきました。 本日が最終の会議となっております。これまで、多くの意見を踏まえまして、これからまとめていきたいというふうに思っております。心からお礼を申し上げたいと思います。 本市におきましても今後皆様方にご協議いただきましたこの第2期計画をもとにいたしまして、こども・若者の健やかな成長と、子育ての安心を支える環境を整備するための総合的な計画として策定をさせていただきます。 着実に実行するとともに切れ目のない支援をこれからも続けていくように、高砂市としては取り組んで参りたいというふうに考えております。 結びになりますが、皆様方におかれましては本日も忌憚のないご意見をいただきまして、この会議の中でいただきましたご意見を市としては十分に取り入れまして、参考にさせていただきたいというふうに思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。 ありがとうございました。
事 務 局	市長ありがとうございました。 恐れ入りますが、市長は他の公務がございますので、ここで退席させていただきます。
事 務 局	これより、会議の進行につきましては、井上委員長にお願いしたいと思います。 これまでの進行にご協力いただきましてありがとうございました。 それでは井上委員長よろしくお願いいたします。
委 員 長	改めまして皆様こんばんは。 今、市長のご挨拶にもございましたように、今年度最後の会議となっております。しかも、こども基本法ができて、そのあとで初めて作られていくというこの高砂市子ども・子育て・若者支援プランの形がほぼ整って参りましたけれども、最後の会議でもいろいろとまたご議論いただけたらというふうに思います。 それでは議題に入りたいと思います。 議題1「令和6年度開催のこどもワークショップ報告書について」を事務局から説明をお願いいたします。 3 議 題 (1) 令和6年度開催のこどもワークショップ報告書について

事 務 局	【事務局より資料1、資料2に基づいて説明】
委 員 長	事務局からのご説明が終わりました。こどもから意見を聴くだけではなくて聴いた後もお返事をしますというところまで、ご報告いただいたんですけども、ただいまのご説明につきまして、ご意見、ご質問等がございましたらお願いいたします。
委 員	このお返事の部分で、僕なんかもこども向けのイベントをやっていたりとかで、こどもから意見を聴いたりとかすることがあるんですが、これからも、よりよいものにしていくために活用させてもらいますっていうところまでは、僕もよく使うんですが、その後どう活用したかまでは、こどもに伝えることがあまりないので、そこを頑張れたらいいなあと、自分のことも含めて感じたところとして、どこが良くて、この部分は使ったよっていうのが1個でもあれば、こどもたちの励みになるんじゃないかなと思うし、取り入れた部分のすごいねっていうところはつくれるんじゃないかなあと思いました。
委 員 長	このお返事が文字だけでは終わらないように、具体的にここを使いましたという、第2弾のお返事ができるようにというご意見でしたけれども、事務局いかがですか。
事 務 局	委員のおっしゃるとおり第2弾といいますか、どうなったっていう具体的なところまでつなげられたらいいかとは思んですけども、今回ちょうどいしましたご意見で、すぐに反映は難しいかなあというところがあったんですが、実際こちらのワークショップを実施することによって、実際にこどもたちがどのように思っているのか、IT機器に対してどのような使用状況であるのかを教えてもらうことができましたので、次ちょっと意見を聴取するような場面については、実際にそのアンケートをもとにこうしましたよ、というところまでつなげていけたらと思っております。 ご意見ありがとうございます。
委 員 長	そうですね。次アンケートを取る時に、これがあったからこうやってアンケートとりますよっていうふうに伝えたら、まず一つこどもたちにお示しすることができるかなと思います。
委 員	こどもたちが16人、小中学生集まってくれたということですけど、公募ということで、どんな感じで集められたのかということと、それから当日の進行はどなたがされたのかということをお伺いしたいと思います。
事 務 局	公募につきましてはホームページ、たかさごナビ、それから学校の方で配布されておりますタブレットも活用して、中学生と小学生全員の方にチラシが届くようにしております。 また学童保育の方にもご協力をいただきまして、来てくれそうな子に直接声をかけていただくとか、子ども食堂の方でもチラシをまいていただくとか、そのようなご協力をお願いした次第です。 当日ワークショップを司会として仕切っていただいたのは、こどもみらい探究社

	という、神戸市で活動されている会社の方になります。委託で行っていただいております。
委 員	参加者を集めるのはなかなか大変かなと思いましたので、16人は少ないようだけれど、結構集まったのではないかと個人的には思いました。
委 員	私から2点、質問をさせていただきます。 まず1点が、小学校2年生から中学校3年生までが集まったということで、今回のパブリックコメントでもそうですけれども、小学校2年生にお話するのと中学校3年生にお話するのって、結構内容の伝わり方が違うと思うんですね。その中でいくつかの班に分けてチラシづくり等をされたと思うんですけども、この班分けで何かこう意識されたことであったり、メンバーをどういうふうに振り分けたのかっていうのをちょっと個人的に興味もありまして、今後参考にさせていただきたいのでお伺いしたいというのが一つです。 もう1点が今回「むこうじまフェスタ夏祭り」のチラシを残したい企画と新しい企画を各班に考えていただいたと思うんですけども、これの趣旨は何なのかというところがちょっと気になりました。アイスブレイク的にこどもたちの交流の場を持つっていうところが一つなのか、それともこの出てきた意見を市が、こどもたちが本当にどう思ってるかその意見を実現したいから、みんなに考えてもらったのか、どちらが主体なのかっていうのをちょっとお伺いしたいので、その2点よろしくお願いたします。
事 務 局	まず1点目グループの分け方なんですけども、専門にやってらっしゃる委託業者様とも調整いたしました結果、やはりおっしゃるように年齢差に幅がありますとなかなか一つのグループとしては難しいのではっていうところがございましたので、ある程度年齢をそろえてグループ分けをし、小学校の低学年がいるグループについては、なるべくスタッフが多く配置して気にかけるように、当日は対応いたしました。 2点目のご質問についてですが、まずこのチラシを使った理由としましては、委員がおっしゃった2点とも高砂市として得られたらなっていうところがありました。すでに終わったイベントではあったんですけども、こちらのイベントを実施しました担当課でも、今後につなげていくためにこのチラシを見てこどもたちがどう思うのか知りたい、という要望もございましたので、実際にあったチラシを使うことで、こどもたちに考えていただいて、それを担当課である部署にはフィードバックをしております。 それと併せまして、こどもたちから実際に意見聴取についてどういった方法がいいかを考えるにあたって、いきなり意見聴取の方法を聴くとなりますと、なかなかこどもたちも難しいかなというところがございましたので、その意見聴取の方法を聴く前段としまして、こどもたちがまず意見を言う機会を設けたかったのと、あその他のこどもたちがどんなふうな意見を出すのか聴くという立場、双方の立場を実際に経験した上で、こどもたちが意見を言うときにはどういった方法がいいかを考えるきっかけづくりとしても使えましたので、委員が仰った2点ともこちらの趣旨としてはございました。

	以上です。
委 員	ありがとうございます。 差し支えなければどの班に何年生がいたのかを伺いたいと思いますので、よければよろしくお願いします。
事 務 局	順番にお伝えする形にはなるんですけども、やきあなごチームが4年生3名と5年生1名です。 かしわもちチームが4年生1名と5年生2名です。 にくてんチームが中学校3年生1名と1年生2名です。 それから、ぼっくりんチームが4年生2名、2年生1名、3年生1名ずつです。 いかなごチームが6年生3名となります。 以上です。
委 員	個人的にどの班もすごく面白い意見が出てるなと思います。その中でも有名人の招致というのがかなり出てるんだなあというので、大谷翔平招致っていうのはやっぱり、グローブのプレゼントが大きく影響してるのかなと思いながら聞いておりました。 またもうちょっと具体的にしっかり考えながら見させていただきます。
委 員 長	それぞれ皆さんいろんな活動されてますので、こういうイベントでこどもたちがどんなふうに動いた、どんな意見が出たっていうのは、それぞれの活動の中でも活かしていけるヒントがたくさん詰まっているんだろうなってふうに思います。
委 員 長	では、次の議題に移りたいと思います。 議題2「第2期高砂市子ども・子育て・若者支援プラン（素案）のパブリックコメント結果について」を事務局からお願いいたします。 （2）第2期高砂市子ども・子育て・若者支援プラン（素案）のパブリックコメント結果について
事 務 局	【事務局から資料3、資料4に基づいて説明】
委 員 長	それではですね、このパブリックコメント期間中に若者の意見表明と参画を促すことを目的に昨年末に開催されました若者未来会議について、若者委員の方からご説明をお願いしたいと思います。
若 者 委 員	【若者委員から資料5に基づいて説明】
委 員 長	ありがとうございます。 最初のすごい大きな一歩を感じました。若者委員の報告を聞きながらすごかったんやな、行けなかったの悔しかったなと思ったら、行かれた委員がいらっしゃるということで、そうやって委員の方がご参加していただいたことによって、より若者

委員	は若者だっていう感じでもなくて、みんなで一緒にやってみようっていうのがものすごく今伝わってきました。しかし私1人だけ満足してはいけませんので、事務局とそれから若者委員からのいろいろなご説明いただきました。さらに今のご説明につきまして、ご意見とかご質問等ございましたらよろしくお願いいたします。 前半のパブリックコメントのところの事務局の説明もございますので、前半の説明も思い起こしながら、皆さんご意見いただけたらと思います。 前半の方のことなんですけれども、一般の方から寄せられた意見で例えば高砂市アピールポイントが少ないと思うとか、不登校支援とかでも各学校に校内のフリースクールを作りたい、とかいう意見はあるんですけれども、回答のところを読ませていただくと、高砂市は待機児童ゼロとか、それから病児保育の充実ってのがすごくしてるとか、不登校の対策にしても、市内すべての小中学校にサポートルームが設置されています。 こういうすばらしい取り組みっていうのがすでにされていることが、実はなかなかこう周知されてないっていうのが本当にもったいないなと思います。今回寄せられた意見は少ないですけれども、同じように、いいことをたくさんされてるのに知らない方がすごく多いんじゃないかなと思って、本当にもったいないなっていう思いを持ちます。 どうやったらうまく周知ができるのかちょっとわからないですけども、ぜひこの取り組みを高砂市民の方に知っていただいて、誇れるまちというか、本当に高砂愛に溢れる市民の方が増えるように、そのあたりの取り組みをしていただけたらなあと思いました。感想です。
委員長	感想ということですが、実際すでにいろいろなことをされているのに、そんなことわかっていましてたというご意見が結構ありますが、そのことについてはどのように分析しておられますか。
事務局	この度いただいたご意見につきましては非常によく言われているところです。 先ほどの若者未来会議でも、市のいいところを見つけよう、やってることをもっと伝えよう、というのがありました。市の業務をやっていると、なかなか他の市の情報に気づけなかったり、批判されることも多々ありまして、なかなか我々アピールすることが、身についていないところはあります。 ただそうやって高砂愛に溢れる方やこの会議で高砂市が頑張ってるねとかいう、一声一声が私たちの自信になって参りますので、やっていることをどう伝えていったらいいのかっていうのは課題ではあるんですけれども、この場でそうやって言っていたことも励みになります。 健康こども部と一緒にどうやったら伝わるのか、どうやったら私たちの自信に繋がるのかっていうのは、考えていきたいと思っております。これはこうしたらできるという答えがないところで、本当に難しいんですけれどもこうやって言っていたことで、より一層やっていきたいと思っております。 ありがとうございます。

委 員	さっきの周知の件で、もったいないなっていうのはもちろん前から思ってます。 一度、山陽電車内で高砂市のアピールの広告をやった時期があったと思うんですけど、その時の感想としては、一応その時も若者委員で意見聴いてもらったんですけど少しも反映されてなくて、こんなものかという気持ちで広告を見ていました。 大阪とか行ったら地下鉄とか阪急電車とかでも、箕面市だと思うんですが、もっとわかりやすく、1回箕面市に行ってみたくなるような広告がありました。それは観光地の説明ではなくてどちらかというと、ここで子育てしませんかみたいなキャッチーなフレーズで、箕面市ってこんなに頑張ってるんやっていうのが1枚見ただけでわかる広告でした。 高砂市の山陽電車の広告は上にあって情報がすごい多くて、なんていうかキャッチーさの違いを感じました。大阪の地下鉄乗ってる人みんな忙しいけれど、この小さいチラシにすごいお金がかかっていると思いますけど、それを見てこのまま箕面市行ってみようかな、次の引っ越し考えてもいいかなとか、こどもができたならそっちもありかなとか、そういうふう感じたと思います。 子育てだけが引っ越しの理由にはならないと思うんですけど、前の高砂市のチラシはこれも言いたいあれも言いたいになっていて、結局何が言いたいのかわかりにくい感じになってたので、内容を絞るというか、この時期は子育てにするとか、この時期お祭りにするとか、なんかそういうところを上手にしたらいいのかなと思いました。SNSも活用しないといけないと思いますけど、他の市町が頑張っているところは、高砂市はもっと頑張らないといけないのかなと思います。 若者未来会議のときに話が出たのは、高砂市出身なんですって言ったら、それどこ？がまず決まり文句で返ってきてしまうってことで、姫路市の隣と答えた経験がある若者ばかりでした。そうならない高砂市になりたいなという思いがあるので、そういう周知の仕方、知ってる人は知ってるけれど、知らない人は知らないっていうのも、伝え方がもうちょっとうまくいったらSNSの時代なんで、SNSに特化してもいいのかなあと、そういう感じでプロモーションしたらいいのかなと思いました。 以上です。
委 員 長	確かに高砂市のそのチラシの検討を以前させてもらったなあというのを思い出しましたがけれども、意見が反映されなかったというご意見を今いただきました。 いろんな世代の方がいらっしゃるから、若者の委員の意見だけを聴いていたらいいということでもないのかもしれないですけども、年齢とともにみんな、これまでのことにとらわれてしまうので、このあたりでいいかなって思ってしまうところは、今の若い人たちの感覚っていうのはすごく大事だろうと思います。次年度は、若者委員の部会も開催していただいて、広報の仕方などいろいろと皆さんのご意見いただけるようなことを考えていただくと良いのではないかと思います。
委 員	3点ございます。 まず1点目が3ページの、先ほども出ておりました不登校支援なんです。これは一般公募の方からのご意見で、高砂市でもこの校内にいわゆるサポートルームとい

	うのを小中学校すべてで設置していただきまして、そこに必ずサポートルームを支援する支援員を配置していただいています。この効果は非常に学校現場でも大きいんですが、そのサポートルームのいわゆる活用を一步進めていただいて、この一般公募の方が書いていただいているように、校内フリースクールっていう例えばですけれども、小学校のサポートルームは今小学生しか利用できない。しかし、校区にいる中学生でどうしても中学校の門をくぐれない生徒さんでも、小学校だったら入っていけるんだったら、そこのサポートルームのところで、いわゆるオンラインでつないで学びを確保していくっていうことをして欲しい、おそらくそういう意味で意見を書かれたのかなと思います。私個人としては非常に柔軟な対応ができるので賛成です。いわゆる不登校においても多様な形態があるというのと、そういう児童生徒に対して学びの場を確保すること、そしてそれは同時に学習権を保障してやることになるので、その辺のところの考え方について教育委員会がどう思っているのかなっていうのが、一つお聞きをしたいところです。 それから2点目は5ページ。これはこどもたちの方から出てきた意見ですが、長期休暇の期間を長くして欲しい。もうこの2年間の特に夏の暑さは尋常なものではないです。実際保護者の方からもかなり強く夏休みの期間を長くして欲しい、いわゆる元に戻して欲しいという意見は学校現場でも非常にたくさん、PTAも含めて聴いておるところです。回答の方にも長期休暇の期間を長くすることについては今後検討していきます、ということなのでちょっと進捗状況についても教えていただけたらと思います。学校現場ではそろそろ来年度の1年間の年間行事を保護者さんにもお示しする時期にきておるところで、大変気になるところです。 それから3点目が8ページ。行事イベントについてというところで、こどもが参加できる行事を増やして欲しいという中で、イベントはたくさん高砂市もされてて、素晴らしいなすごいなと思います。その中で、やっぱりそのイベントとか行事が行われる場所っていうのは、参加のしやすさに非常に大きく影響してると思います。この度、地域交流センターというものが各地区に設置されました。だからその地域交流センターを拠点とした、地域ごとの行事やイベント、特にこども向けの行事やイベントっていうものを増やしてあげることによって、保護者が同伴しなくてもこどもたちだけでその地域にある交流センターに足を運んで、イベントとか行事にも参加できるというようなところで、地域交流センターがねらう世代間交流もそこでできていくのではないかなというふうに思うので、その辺も今後、この会議等々、また意見と回答を見せていただきながら思ったところです。先ほども他の委員もおっしゃられたように高砂市はすばらしい取り組みとか魅力いっぱい持っているの、その辺も本当に活かしていくことができるのではないかなというふうに思います。 よろしく願いいたします。
委 員 長	それぞれ回答よろしく願いいたします。
事 務 局	まず不登校の件ですけれども、私たちが計画した校内サポートルームというのは、委員が申しましたように在籍校にいるこどもが教室に入りにくいときに同じ学校の中にある別の教室で過ごすという意味で設計しております。 今新たな意見として、校区にいる中学生が別校に行くことができていいのではな

	いかというような意見については、教育委員会ではそういうところまで検討できていませんので、そういう意見があったということで確かに多様な学びの場ということで、次のステップに進むためには貴重な意見だというふうに思いますので、その意見は持ち帰ります。 次の長期休暇の期間については、そもそも近隣市町よりこの高砂市が長くなった原因は授業時間数の確保というところで、夏休みの短縮というところを進めたのですけども、今は逆に国が1,086時間というある一定の時間数を超えすぎないように、先生方の働き方、勤務時間というところで、逆に時間数を多くしすぎてはいけませんよというような指示を出してきています。 その5ページのこどもの意見で早く帰れる日を増やして欲しいっていうのと、長期休暇の期間を長くして欲しいというのは相反する意見になってしまうんです。長期休暇期間を長くすれば授業時間数を確保するために、普段の日は早く帰れなくなります。今高砂市は逆に長期休暇が短い分、授業時間数が確保できるので、4月であったり、例えば夏休みが始まってすぐの時であったり、学校で工夫して早く帰れる時間を、1,086時間というある一定の基準を考えながら確保していただいています。そうすることによって先生方も放課後時間ができますし、こどもたちもゆとりができるっていうところで、このバランスをとってもらいたいと考えています。 日本全国いろんな自治体が、逆にその時間数の確保のために、夏休みをもうちょっと短くする、平日の時間を早く帰らせる、6時間目じゃなくてすべて5時間目にするために夏休みを短くしますよ、というような考え方もありますので、そういうような意見とかも踏まえながら検討しているところですので、この令和7年度から高砂市が夏休みの期間が、例えば元に戻るっていうようなことはまだないというスケジュール感になっております。 以上です。
委 員 長	1点目2点目、今ご回答をいただきました。1点目に関してはまだ検討はできていないっていうことなので持ち帰っていただくということ、2点目に関しましては、非常に早く帰るということと、それから休みの関係っていうのは非常に難しいんだというところではございましたが、まず先に3点目のところのご回答いただきたいと思います。
事 務 局	3点目、地域交流センターのお話が出ましたので、委員が言われるような地域交流センターを拠点としたイベントの参加しやすいまち、地域交流センターの役割も含めてご回答させていただきたいと思います。 委員が言われましたように、地域交流センターについては市民の地域の活動の場というところで、コミュニティ活動でありますとか、福祉生涯学習というようなところを資する場として、これまで公民館であったんですけども、地域の方が集う世代間交流でありますとか、そういうこどもの居場所というようなところで、様々な取り組みを行うために地域交流センターというのを各地区に設置したというところがございます。しかし今年度からの設置になっておりますので、まだまだ十分な機能ができてない部分もたくさんございます。 先ほど委員が言われましたように、その拠点となる事業というものもこの中に各地

	域の運営協議会というのが設置されていまして、その運営協議会を中心に地域の交流活動の実施でありますとか、情報発信またイベントの実施、講演会の開催など、いろんな企画を運営協議会で検討しています。運営協議会はこどもの代表でありますとか、老人会でありますとか、婦人会でありますとか、いろんな自治会等の団体の代表の方で構成されておりまして、様々なことを話し合っ地域交流センターが十分な機能を生かせるように企画をする場となっております。 私が知ってる範囲内ですけれども、運営協議会が設置して動き始めたというところで、今後そういうところにつきましても、課題点がたくさんあるというふうに聞いております。委員が言われましたような地域交流センターの拠点として、しっかりとその役割が担えるように担当部署にも伝えまして、地域交流センターがそういった役割を担えるような形で進めていけるよう、取り組んで参りたいというふうに思います。
委 員 長	3点のご回答につきまして何かさらにご意見等ございましたら、お願いいたします。
委 員	夏休みについては、事務局の方からも回答ありましたように、はっきりと結論が出てるようなので、それははっきりわかってよかったなというふうに思います。 それから地域交流センターにつきましては、今丁寧にご回答いただきましてありがとうございます。特に一定数、各地域のフリースペースを利用して勉強しよう、という子もいるようなのでその辺も含めて、いろいろと今後も活用、非常に柔軟にしてやっていただけると、放課後のこどもの居場所っていう、いわゆるそういう観点からも非常に大事な施設になるのではないかなと思っています。 ありがとうございました。
委 員 長	まさにこどもたちの代弁者として、こどもがきつとこんなこと望んでるんだろうなっていうご意見いただけたように思いますので、ぜひ前向きにできることできないことはもちろんございますけれども、ご検討いただけたらというふうに思います。
委 員	一つ提案といいますか、意見なんですけれども、この校内フリースクールっていうものについて一つ提案です。 今日はトライやるウィークの会議があったんですけれども、結構不登校で学校行けないこどもたちもトライやるウィークの時には、学校外の活動ということで外に出ることができているようです。その子たちが行ってる場所わからないんですけども、結構トライやるウィークで行きたい中学生の場所として、母校・母園と言いますか、自分の行っていた小学校やこども園、保育園が人気があつて、2、3割ぐらいのこどもが行ってるようです。 そこがフリースクール的な対応性のある学びの場となるかどうかわからないんですけども、中学生が小学校行くだったら保育園、こども園にもそういう場があれば、そこをフリースクール的な、スクールにはならないかもしれないですけども、良いのかなと。中学生だと小学校行くよりも保育園、こども園の方が知ってる人も少なく、きょうだいとか年齢も離れて行きやすいかもしれないですし、かえって年齢が離れてることで、スクールにはならないかもしれないですけども、異年齢、小さいこどもさんと接して、お兄ちゃんお姉ちゃんと頼ってもらえて勉強とは違っ

	た意味で、外に出やすいようなことがあるかもしれないので、そういうこども園、保育園にフリースクール的なものができればいいなと思った次第です。また一つの提案として考えていただけたらと思います。
委 員 長	保育所っていうのは、株式会社も実は作ることができますので、盛岡市にある株式会社が作っている保育所なんですけれども、株式会社さんがフリースクールも運営しておられまして、広大な敷地の中に両方の建物があって、そのフリースクールのこどもたちがその保育所の出身なので、フリースクールに来るんだけど、行き先は保育所の方に行っているというお話を実際に聴いて参りました。今の委員のご提案っていうのは、実際こどもたちにとって必要なことなのかもしれないなと思いながら聴かせていただきました。 いろいろとこんなふうになっていったらいいな、という高砂愛に満ちたご意見がたくさん出ておりますけれども、次の議題に移らせていただいてもよろしいでしょうか。
委 員 長	それでは次に、議題3「第2期高砂市子ども・子育て・若者支援プラン（案）について」を事務局からご説明お願いいたします。 （3）第2期高砂市子ども・子育て・若者支援プラン（案）について
事 務 局	【事務局より資料6に基づいて説明】
委 員 長	事務局からのご説明が終わりました。ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問等ございましたらお願いいたします。 どの点が議論を受けて、変更されたかというところを中心にお話していただきますので、ほぼほぼ内容的にはもう前回のものと変わらないというところではございますが、さらに何かお気づきになったことがあれば、まだ案の段階ですのでご意見いただけたらと思います。
委 員	パブリックコメントの内容が、すぐこちらに反映できるものではなかったというところで、それに関しては全然問題ないと思うんですけど、ぜひ今後の施策の中に盛り込んでいただきたいなと思います。 質問ですが、パブリックコメントが最終的にこの高砂市子ども・子育て・若者支援プランの施策に役立ったのかどうか、っていうところを評価するのはどういったところになるんですかね。評価シートみたいのが第1回目のこの会議で出てきたと思うんですけど、ああいう中になるのか、また別の形でわかるのか、もしありましたら教えていただければ幸いです。
事 務 局	パブリックコメント単独で、第1回の会議の時にお示したような進捗管理シートを作る予定は今のところはございません。今回プランの第4章にたくさんの施策の方をお示ししておりますので、次年度以降は、この第4章の施策ごとに、毎年Sとか、AとかBとか、評価の方はしていくことになります。その際に今回、パブリックコメントでいただいたご意見の方は、もちろん私たちも意識しながら、かなっ

	たかどうかっていうところは、評価のところに反映していきたいなというふうには思っております。 以上です。
委員	ありがとうございます。ちょっとこういう施策に関わるのが初めてなので、そういうのを教えていただけて助かります。ありがとうございました。
委員	75ページの事業No32312と32313についてなんですけれども、この部分は、「こどもの健やかな成長に向けた教育・保育の充実」という取組目標の2のところに、該当するところなんですけれども、ライフステージのところ、32312は「幼」と「学」、そして姉妹都市との交流事業、32313の方は「学」のところ、ライフステージへと印がついてるんですけれども、これは学校教育場面でのという意味合いという理解でよろしいのでしょうか。 何となく、こうした文化芸術スポーツをする指導する人、人材との連携とか姉妹都市とのつていうふうになると、青年期も関係あるんじゃないのかなというふうに思ったりしたんですが、教えていただきたいと思います。
事務局	今現在、32312と32313で行っている事業につきましては、今ライフステージでお示ししている、乳幼児期とあと学童時期を対象にしたもののみとなっておりますので、今この時点ではこのような表記となっております。 また今後、対象を拡充していくようなことがありましたら、もちろん青年期の方に拡充していけるように、推進はしていきたいなと思っておりますが、あくまで現時点ではこのような表記となっております。
委員長	青年期のところまで広げていけたらいい中身かなというふうにも思いますので、委員のご意見として受けとめていただけたらと思います。
委員	12ページなんですけど、就学前児童の状況っていうところで、3歳以上の在宅のお子さんかなりいるなっていうのを思っていて、足すと72人になるんですけど、その方たちはどこかに通ってらっしゃるのではなく、お家にいるとかになると、やはり少し心配かなというふうに思ったりはしたんですけど、そのあたりは把握されてるのかなって思いました。 また、32ページのところで④こども誰でも通園制度は、これから始まっていく制度なんですけど、このアンケートを見ますと、曜日や時間を固定せず、自由に利用したいっていうところが、やっぱり最も多くなってしまっています。この事業の趣旨としては、一人一人のこどもの育ちと、保護者の孤立感とか不安といった子育ての応援や支援をされるためのものであると思っていて、そのあたりの趣旨がちょっと、一時預かりみたいな感じとして受けておられるのかなというところが、これから始まる前で、私たちも勉強していかないといけないなというところもあるんですが、しっかり周知していただきたいなと思います。 あと33ページの⑥なんですけど、子育てをする上での相談先っていうところで、身近に相談できる施設であったり、保護者同士で気軽に話ができる場、専門的な相談ができる窓口っていうのは保育園、こども園かなと思っていて、地域子育て支援

委 員 長	拠点事業などというものもあったりするので、こども窓口課結つくりんとともに、私たち園の役割っていうのをもっと利用していただきたいと思います。 また、先ほどの議題で委員から提案されたお話も本当にすてきなお話をいただいたと思っていて、本当にそうやってお話が気楽にできて、心がほっとする場っていうのになれたらいいなっていうふうに私たちはいつも思っています。卒園したこどもたちの将来もすごく心配しながら、私たちは過ごしてるので、そういうことがやっていけたらなっていうように、一緒に考えていけたら嬉しいなと思います。 1点目はご質問かなというふうに思いますので、どこにも行かずに、子育てをされてる方たちのことをどのような形で把握しておられますかということかなと思います。 2点目はアンケート結果ではこども誰でも通園制度に対する理解が、なかなか市民の方たちにはうまく行き渡っていないのではないかな、ということなのでこれらもご質問と考えまして、そのあたりをどのように分析しておられるかということで、ご意見いただけたらと思います。 3点目はもう本当に、就学前の保育や教育に関わる先生方の思いとして、誰でも相談していただけるようなそんな場所になっていきたいというふうな思いをお話してくださったのかなというふうに受けとめました。 1点目と2点目ご質問ということで、ご回答いただけたらと思います。
事 務 局	12ページの(2)①就学前児童の状況というところでお示ししております、在宅等に関してなんですけども、表の米印の注記をご覧ください。在宅等には、市外の国立及び私立幼稚園であるとか、特別支援学校(幼稚園部)に通うこどもさんも含まれてるというところで、在宅等というところで、例えば障害の施設であるとか、そういったところに通われてるこどもさんもいらっしゃいますので、実際、在宅しているというところで言いますと、もう少し数字的には少なくなるのかなというの把握をしております。 もう1点が32ページ④のこども誰でも通園制度というところで、令和8年度から本格的に高砂市においても、実施を予定はしておるところです。国におきましてもいろいろ今、こども誰でも通園制度に関していろんな議論や協議がされておるところでありまして、国や県を通じましてそういった議論の情報とかっていうのは、市の方には届いておるという状況になります。 いろいろ情報収集もしっかりした上で、まず利用者の方にも、今言われました一時預かりとの違いであるとか、こども誰でも通園制度がどういった制度になるとかっていうのをしっかり丁寧にお伝えしたいと考えています。実施に向けても、まずはこちらとしてもしっかり情報収集するとともに、保護者利用者の方にも伝えていきながら、せっかくの国の制度ですんで、しっかりと取り組んでいきたいなというに思っておりますので、よろしくお願いいたします。
委 員 長	私もこの米印のところをちゃんと読めていなくてなるほどと思いました。どこにも行ってないこどもの数の合計ではないんだということがわかりました。
委 員 長	ご意見、ご質問等がないようでしたら、第2期高砂市子ども・子育て・若者支援

	プラン（案）につきまして、ご承認をいただいたということによろしいでしょうか。承認とする場合は拍手をお願いしたいと思います。 （委員拍手により承認）
委 員 長	ではご承認いただきましたので、こちらの内容で後日私から市長に答申をさせていただきます。 また、本日の会議後の微調整等につきましては、私と事務局に一任していただくということによろしいでしょうか。 （委員拍手により承認）
委 員 長	ありがとうございます。 議題は以上となります。その他として事務局から何かございますでしょうか。
	4 その他
事 務 局	【事務局より、高砂市の学校の現状とアンケート調査報告会について説明】
委 員 長	ありがとうございます。 机の上に置かれておりました、「高砂市 新たな学校づくり通信」の報告会開催のご説明をいただいたかなってふうに思いますが、これに関して何かもうちょっと補足で聞いておきたいことがございましたら、挙手いただきましたらと思います。 これから学校にこどもを通わせていかれる保護者、委員の方たちは参加していただいて、今後の学校のあり方について、ご意見を言っていただけたらいいのかなっていうふうに思いますけれども、またこれがどれぐらいの参加人数で、どういうご意見が出たのかとか、どういう雰囲気だったのかっていうのを、次年度聞かせていただけたらいいなというふうに思います。
委 員 長	他に、事務局の方から何かございますか。 それでは以上をもちまして、令和6年度第4回高砂市子ども・子育て・若者会議を終了いたします。 委員の皆様には、第2期高砂市子ども・子育て・若者支援プランの策定や、高砂市の子育てに関する支援などにつきまして、愛に溢れる、たくさんのご意見をいただきまして本当にありがとうございました。ご協力に感謝いたします。 ここで進行を事務局にお返しいたします。
事 務 局	5 閉 会 委員長並びに委員の皆様、高砂市子ども・子育て・若者会議でのご審議、誠にありがとうございました。以上をもちまして、令和6年度第4回高砂市子ども・子育て・若者会議を閉会いたします。 これまでのご審議、誠にありがとうございました。